

令和6年度第2回川崎市公共施設マネジメント推進委員会（議事録）

- 1 開催日時 令和6年12月23日（月）午前10時00分～午前11時30分
- 2 開催場所 本庁舎7階総務企画局会議室5
※対面及びWEB会議のハイブリット形式にて開催

3 出席者

出席委員

李会長、朴委員（対面出席）

伊藤委員、稲生委員、倉斗委員、山口委員（WEB出席）

市側出席者

樋口 総務企画局公共施設総合調整室長

島田 総務企画局公共施設総合調整室担当課長

佐藤 総務企画局公共施設総合調整室担当課長

中村 総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

藤原 総務企画局行政改革マネジメント推進室担当課長

川又 財政局財政部財政課担当課長

水嶋 財政局資産管理部資産運用課長

事務局

総務企画局公共施設総合調整室 各職員

4 議題（公開）

地域ごとの資産保有の最適化検討について

- （1）市民参加の取組について（ワークショップ結果等）
- （2）起点施設のデータ等分析について
- （3）今後の検討の進め方について

5 傍聴人数 1人

6 会議内容（※『太字』は次第における各項目）

『開会』

—事務局より、令和6年度第2回川崎市公共施設マネジメント推進委員会の開催を宣言—

—開会挨拶（樋口 総務企画局公共施設総合調整室長）

—事務局より、事務連絡—

『（１）市民参加の取組について（ワークショップ結果等）』

【李会長】

それでは、次第に従いまして進めさせていただきます。

まず、議題１として、地域ごとの資産保有の最適化検討のうち、（１）市民参加の取組について（ワークショップ結果等）となっております。

最初に事務局から資料１について説明をしてもらいます。その後、それに対して御意見の時間を設ける、そういった流れで進めさせていただきたいと思います。

それでは、事務局から説明をよろしくお願いします。

（資料１について事務局から説明）

【李会長】

ありがとうございます。

それでは、委員の皆さんから御意見などをいただきたいと思います。

御意見ある方は挙手をお願いします。

【稲生委員】

令和６年度につきましては、川崎市で具体的な施設を基礎にそれぞれの地域でワークショップを展開されたということで、私は一歩先に進んだという意味で大変評価できるのではないかと考えています。

一方で、１６ページ、あるいは１５ページのところですが、まさにワークショップで出てきた意見、この赤字ところが先ほどおっしゃったように共通的な意見であり、青字のところが地域特有の意見ということで、地域特有のところは今後具体的な施設で詰めていくということになります。私としても悩ましいと思ったのがこの赤字のところでございます。というのが、多世代間の交流とか子育て支援とか文化・芸術活動、恐らく市民の方からはこういう発想の意見が多いただろうと事前に仮説的にも考えていたところがございますが、やっぱり出てきていたということかと思えます。

この３つの単語というかワードですけれども、結構違うこと、方向を向いている部分でございます。恐らく事務局のほうでは今後対応に苦慮するんじゃないかなと思います。要は、全世代の交流ということになると、年齢差、あるいは仕事を持っている、持っていないとか、あるいは場合によっては川崎市の場合ですと多文化共生という観点からいろいろな国の方、出身の方も住んでおられるということになりまして、その交流をどういうふうに進めていくのかというのは、なかなかどの自治体においても厳しいと言われているところです。

一方で、子育て支援というのは、どちらかというと、現実に政策課題みたいな感じで、住民からの要望という形で恐らく出てくる部分であって、世代間の交流を進めると防犯的な観点からも子育て支援施設ということで、起点施設に両者を盛り込むとなると、結構難しい部分がある。この点については今後重要な検討課題になるのかなと思います。

また、文化・芸術活動ということになりますと、一般的にはサークル活動的なことが予想されますが、文化・芸術活動も多様な要素を持っておりまして、ホールに関する分科会で検討しましたが、規模によっていろいろな要素を考えていかないといけないと考えます。

そういう観点からすると、16ページの5つの視点はどれもなかなかしんどい。

一方で、そもそも恐らく川崎市が検討のスタートに置いていたのが、有効活用の観点でございまして、有効活用しようと思えば思うほど特定の施設にはある程度機能を集約的に考えて寄せ集めたほうが、恐らく効率的になるわけですね。

ですから、起点施設についてはかなり注意して、今後どのような機能、あるいはサービスを提供していく拠点に集約していくのかということ議論して詰めていただくのが大事なのかなと思っています。

あくまでも問題提起という形でコメントを述べさせていただきました。ありがとうございます。以上です。

【李会長】

ありがとうございます。

ほかの委員の方、御意見がありましたら挙手をお願いします。大丈夫ですか。

では、私から感じていることを少し話したいと思いますが、今ワークショップを約2か年かけて20回ぐらい行った時点で、市民の方々の様々な意見をいただくことができました。その中で今、稲生委員がおっしゃったように、市民の方々の要望とか必要なことを整理することには、5つの視点として整理ができましたが、これを実現するときは、また違う苦労が必要かと思います。

そのときによくありがちなミスが、市民に対して提供する立場からいろいろ頑張って工夫すると、それが知らないうちに落とし穴に陥ることがあり、私たちは市民のためにつくって提供するんだということで、供給者側の視点になってしまいます。そうすると、実際にそれができたら市民はユーザー側ですので、何かこういうことじゃなかったんだけど、何か不便だなとか、ちょっと違うなということが結構ありがちなんですね。

あくまでこれはモデル事業ですので、今後これできてそこから出てきたいろんな問題を見直して、どんどん改善していく、その流れですので、最初から100%成功というのはないんです。ですので、そういうことを恐れなくて、基本的にはこれがこういうコンセプトで5つの視点を取り入れるためにやって、それぞれの機能を実現するときに、市民が例えば子育て支援の機能、こういうことができたら市民がどのようなプロセスでこれを使うことになるのか、それを必ず検討してほしいです。市民の方々から情報をどこで得てこれが何で必要で、ここを使うとああいいなこと、そういうユーザー側の視点を必ず入れてプロセス検討をすると、市民から使いやすい、近づきやすい、そういうことになると思いますので、よろしくをお願いします。

【事務局】

倉斗委員よりメッセージにて、「子育て支援という機能面のほうが思い浮かぶの

ですが、多世代交流という空間が重視されるなど思いました」という感想をいただきました。

【李会長】

ありがとうございます。

ほかの委員の方、御意見などありますでしょうか。

特に意見なければ次に進めさせていただきたいと思えます。

『（２）起点施設のデータ等分析について』

【李会長】

続きまして、（２）起点施設のデータ等分析について、事務局から資料２の説明をお願いします。

（資料２について事務局から説明）

【李会長】

ありがとうございました。

それでは、御意見等がある方は挙手をお願いします。

【伊藤委員】

御説明ありがとうございます。

確認ですが、複合化等検討施設候補と利用向上施設候補に分類するということですが、これは複合化等検討施設候補に該当しない起点施設は、全て利用向上施設候補という分類になるということによろしいですね。

これは架空の話ですけれども、例えば利用者がたくさんいて、非常に利用実績もあって、ほとんど検討の余地がないようなものというのはあり得るかもしれないんですけども、それも含めて利用向上施設候補として、利用向上のためにいろいろな工夫をするということですが、それは個別の施設ごとにいろいろと濃淡といいますか、非常に改善の余地がある部分がある施設と、そうでもない施設が一応含まれるというふうな理解でよろしいということでしょうか。

【事務局】

伊藤委員のおっしゃるとおりでございまして、施設によって状況が異なりますので、何ができるかというのを個別に整理し、施設所管局と協議してまいります。

ただ１点、複合化等検討施設候補の周辺施設を含めて検討していく際に、利用向上施設候補の施設が含まれる場合もございますので、複合化の検討によっては、今後、利用向上施設候補の施設が複合化の相手型施設として抽出される可能性はございます。

【伊藤委員】

分かりました。ありがとうございました。

【李会長】

ほかの委員の方、いかがでしょうか。

【山口委員】

この2つの分け方を補助するものとして、先ほど5つの視点というのが出たと思うんですけども、多世代の交流というものがあつたと思うんですが、この起点施設38施設がどのような人たち、世代でもいいんですけども、世代の人たちが使っているかというのはどこかで補助的に分かる資料というのはあるんでしょうか。

要するに、年代が偏っているとか使っている方が偏っているということ、あるいはバランスよく使われているという、そういうことはどこかで検証というか参考資料として把握することは可能ですか。

【事務局】

施設によってはございますが、起点施設全体を整理したような資料は無い状況です。利用団体等へのヒアリングなどで、そのあたりの状況も補助的に把握できればというように考えております。

【山口委員】

分かりました。ありがとうございます。

【李会長】

ほかの委員の方、いかがでしょうか。

【稲生委員】

今、山口委員さんがまさにおっしゃったことが僕もちよつと気になりまして、そうするとさっきの5つの視点というものは、どういう形で今後反映されるのかというのはちょっと分からなかったんですが、あくまでも起点施設の分類ということで今回利用率みたいなこういうデータ、客観的なデータでまず分類して、その後どういう機能をその施設、起点施設の中に放り込むかという段階は、今回の御紹介いただいた資料の中にはありませんが、それは今後加味されて分析が続いていくということになるんですか。あくまでも今回のデータ分析は割り切って効率性を対象的に分析したんだと、こういう理解でよろしいんでしょうか。

【事務局】

今回の分類により、今後の取組の方向性を一旦整理します。5つの視点につきましては、複合化等検討施設において、今後、先を見据えて詳細な内容を検討していく中で、視点を踏まえた検討を行なっていきたいと考えております。また、利用向上施設に

つきましても、各施設で今後どのような工夫ができるかという部分で、地域特性等に関するご意見等もありましたので、それらを踏まえながら検討していきたいと思っております。

【稲生委員】

ありがとうございます。5つの視点が別の方向を向いているというのがありまして、最初どこから始めるかというときに、確かに今回の事務局案のような、どちらかという視点3に絞って効率的なところをというのもデータとしてまず見られるということで、スタートラインにするんだったらそれで結構なんですけど、ただ市民の方たちからすると、せっかく議論したのに多世代間の交流とかそういうのが起点施設を分類していく上で検討されていないのではないかという、これはもちろん事務局からすれば今の説明のように、それは誤解であるということになるかと思うんですが、そういった誤解を生まないような形で、分析が終わった結果を市民の皆様にご披露するときに、注意をなされたほうがいいのかと思います。これは感想です。

【李会長】

ほかの委員の方、御意見はありますでしょうか。

【朴委員】

すみません、ちょっと遅れてきたので、もしかしてポイントがずれているかもしれませんが、質問というよりは意見です。

資料の中で、多世代交流、今もありましたけど、そういう言葉が上がっていたと思うんです。それで前の会でも多分議論がありましたが、こども文化センターとか老人いこいの家とかという名前は、立ち上げるときの費用とかそういう目的意識の形で上がってきている名前だと思うんですけども、当然そういう名前がついていけば多世代交流という場には成り難いという気がします。

それを踏まえた上で、複合化とか多目的化というのは大変いい考え方というか、多分必要なんだろうと思うんですが、ある施設をそういう形の名前の下にやろうとすると、多分今使っている方はどんなに少ない方たちであっても、そういう人たちは自分が使っている施設は集約化される、あるいは転用されるというような意識は持つと思います。そういう形のことには際しては、やっぱりほかの委員の方たちもおっしゃったように、どういう形でということが目的意識として説明の中に表れてこない、すごくネガティブな印象を受けるだろうと思います。意見です。

【李会長】

ありがとうございます。

2ページを見ていただきたいのですが、今説明して下さったところが起点施設についてのデータ分析を行って、そのために白書のデータの中で施設の利用状況、その中で部屋ごとの利用状況とかのデータを存分に活用する、そういう流れでできているんですけど、このような形でこれは定量的な分析に該当するところなんですよ。この

ような分析で問題ある施設についての選別を行って、その下に令和7年度に適正配置パターンを検討とか利用向上を目指した取組の方向性整理とか、このようなところで先ほど資料1で説明した5つの視点を具体的にどの視点をどのように配置するのかという検討段階は、まさにこの令和7年度のところになると思うんですね。

そのときに、検討するのが5つの視点を、全部を一つに、例えば一つのモデル施設に取り入れることはできないかもしれないですけど、そこに必要な、周辺に必要な機能をそこにできるだけ入れるための調整が、この令和7年度のところに関わっているんじゃないかと、私はそのようなプロセスとして考えておりまして、まさにそのときにユーザー側の視点を取り入れることが必要と感じております。

ですので、それに関しても、令和7年度にも委員の皆さんのほうからそのような視点でこのモデル事業が市民の方々に大きく還元できるように検討していただければいいかなというふうに思いますので、よろしくお願いします。

【事務局】

複合化施設ができるまでには長い期間が必要となるものですので、この先も取組を継続していく必要がありますが、令和7年度においては、これらの施設を今後どういう方向で検討していくかというスタートの段階というところで、しっかり整理して考えていきたいと思います。

【李会長】

ありがとうございます。

資料2についてのほかの御意見などいかがでしょうか。

【事務局】

倉斗委員からメッセージをいただきました。「この新コンセプトを決めるに当たり、川崎市の公共施設マネジメントのビジョン、ゴールイメージを決めなければ駄目だと思います。」

【李会長】

意見ですね。

【事務局】

ありがとうございます。

資産保有の最適化は長い期間の取組でございますので、これまでの市民意見なども参考にしながら、どういうところを目指すのかというところを、施設によっては令和7年度の取組方針の中で検討の方向性を示して、そこを目指して令和8年度以降、具体的にどのようなことを各施設でやっていくかという、そういうプロセスをしっかりと示せるようにしていきたいと思います。

【李会長】

ありがとうございます。

先ほど山口委員がおっしゃった内容の中で、施設の利用状況について、それを使っている市民の方々の年齢とかの属性についての話がありましたが、実際に今後、何十年かの継続的なことになるとは思いますけど、このような施設の再配置とか機能向上とかをするためには、やっぱり使っている方々を綿密に把握することがすごく重要なんですね。以前に話をしたんですけど、やっぱり部屋ごとの利用状況を把握することは結構大変なことなんです。ですので、こういうことを毎年定期的に自動的に把握できるような、そのようなシステムが絶対的に必要なんですよ。

そのときに部屋ごとの利用状況プラス、そうするときにそれを使っている方々の内容と利用用途と、あと使っている方々の属性も同時に把握できるようにすると、1年間たまったものを活用して、それを次のほかの施設の再配置をするときに、それが活用できるわけなんです。これを必要があるから今年1年かけて調査しようとしたら大変なことになりますから、そうならないように徐々にシステムとして構築していただけたらいいかなと思いますので、よろしくお願ひします。

『（3）今後の検討の進め方について』

【李会長】

続きまして（3）今後の検討の進め方について、事務局から資料3の説明をお願いします。

（資料3について事務局から説明）

【李会長】

ありがとうございます。

意見などがある方は挙手をお願いします。

【稲生委員】

来年度に一気に進んでくるなということで、大変だなというふうに思いました。

スケジュール感の中で、令和7年度の第2四半期ですから、要は9月末ぐらいを目途に適正配置のパターンを決めて、この施設とこの施設を組み合わせると決めて、一方で利用団体等へのヒアリングも全部済ませてしまう。それでもうパブリックコメントにかけてしまうんですけども、一気に進んだなという感じがあって、住民との関係とかは大丈夫かなという。それからパブリックコメントだけなのかなということの確認なんですけれども、その点はどのような感じで、要は市民の皆様の理解を進めていくのかなと思ったんですけども、この点いかがでしょうか。

【事務局】

取組方針では検討の方向性を示すもので、どのような機能の施設になるかをこの段階で決定するものではございませんので、その施設が複合化となった場合に、どういった機能ですとか具体的な検討、検証はまた改修時期等を見据えた先で入ってきますので、一旦我々のほうでは、将来に向けた改修時期を見据えながら、というところでの視点で方向性を整理するというものです。起点施設に対しそういった方向性を示していくというところで、各局と調整しながら方針の記載内容などを慎重に決めていきたいと思っております。

【稲生委員】

分かりました。要するに、個別施設の名称、アウトプットとしては、ここで言うアウトプットというのはパブリックコメント手続きにかけるイメージとしては、次のページにあるような個別施設の検討を踏まえた結果、これがパブリックコメントにかけられていくという、こういうことで確認ですがよろしいんですね。

【事務局】

そのようになります。

【稲生委員】

分かりました。ちなみにこれ、ホールに関する検討のときも、こういう感じでこれとこれを組み合わせっていくといったような、個別施設についての検討結果というのは、ちょっと私は記憶が薄いんですが、パブリックコメントにかけたんですか。その点いかがでしょうか。

【事務局】

ホールにつきましても、まだ19施設のうちのどれをどうするかというところまではお示ししていませんので、今後、地域の最適化検討の取組と合わせながら、具体的な施設の名称が出ていくところになります。

【稲生委員】

分かりました。そういう意味では、初めて今度個別施設の組合せみたいなものが出ていく、表に出て公表されるという、こういう理解でよろしいですか。

【事務局】

そのとおりです。先ほどのスケジュールにおいて年明けのオレンジ色の部分で今回の中間報告ということで、本日お示したような資料をベースに出していくのと、ホールにつきましても、ホールのあり方を踏まえた、今後どういう施設を検討していくかというところで施設の名称を出していきたいと思っております。

同じ令和7年度の第3四半期を目途に、名称の挙がった施設については、令和8年度以降どういう形で検討をさらに進めていくかというところの方向性を、ホールのほう

も地域のほうも示していくということで、このようなスケジュールで連携しながら進めていく予定としております。

【稲生委員】

分かりました。ハレーションを起こすような話に今度いよいよなっていくわけですので、特に議会で議論いただくタイミング、恐らくこれは僕が言うことではありませんが、やっぱり政治との関係が出てくる可能性もありますので、そこら辺は十分に御留意いただくとよろしいのではないかなと思った次第です。ありがとうございました。

【李会長】

ありがとうございます。

今、倉斗委員からメッセージがありますので、よろしく願いいたします。

【事務局】

倉斗委員より、「パブリックコメントを集める媒体方法はどうなっていますか」ということで、施設に関する情報発信についての御質問をいただきました。「広く、多世代の市民意見を示せる手法を考えるべきだと思います。」ということでございます。

パブリックコメントにつきましては、まず市のホームページに掲載するものと、各区役所の市政資料コーナーに閲覧用のファイルを据え置くというところがございます。電子メールですとか郵送、FAX、持参などで広く皆様の意見を求めてまいりたいと考えております。

【李会長】

ありがとうございます。

ほかの委員の方、御意見いかがでしょうか。

【伊藤委員】

モデル4地域における取組方針を来年度に提示するということですので、これはあくまでモデル4地区ということで、将来的には全市域に拡大して検討していくということだと思います。

ですので、来年度取り組まれるこのモデル4地域における取組方針というのを、かなりしっかりと市民の方に理解していただく。その方針もあまりぶれがないようにしていくということが必要であって、もしここで何か個別のいろいろな事情を織り込み過ぎますと、結局全市域での取組ということが非常に難しくなってくるというふうに思いますので、この来年度の取組に関しては、しっかりと対応していく必要があるなというふうに思います。

倉斗委員のコメントにもありますとおり、パブリックコメントというのはもちろん市民の方、関心のある方は意見を出すということですがけれども、幅広い意見を拾い上げる手段としてこのパブコメだけに頼っていいのかという問題もありますので、その部分はしっかりと対応する必要があるなと思いました。以上です。

【李会長】

ありがとうございます。
山口委員、どうぞ。

【山口委員】

補足なんですけども、先ほど3ページで起点施設と相手方施設の建築基準法などを調べてというふうにおっしゃったんですが、複合化する場合の起点施設について、建築基準法などを調べるとおっしゃっていましたが、それをできれば最大限使うときはどれぐらい使えるのかということまで、できれば調べておいていただきたいなというふうに思いました。そうすることによって、将来、多世代交流に使うための空間が欲しいと思ったときに、例えばこの起点施設に設けられるかもしれないというような、そういう起点施設のポテンシャルというのを把握されていたほうが、いろいろいいのかなというふうに感じました。以上です。

【李会長】

ありがとうございます。
朴委員、お願いします。

【朴委員】

この2ページの適正配置パターンの検討という項目と、利用向上を目指した取組の方向性整理というのは、多分かなり時間のスパンが違うように印象を受けます。適正配置のパターンの検討は、ハードウェア的なものを含めるから、それこそ5年、10年のパターン化を検討しながらやるんだというふうに、この委員会のメインのタスクというか目的なんだろうと思うんですけども、利用向上というのはどっちかというソフトウエア的な感じだから、使われていない時間帯の活用というのは別にこの委員会にかける必要もなく、使われている施設なり、市のほうから使われていない施設は、時間帯が異なりますからどうぞと出すことも重要だし、何かどうしてそれが使われていないのかを考えたのであれば、では何かの気持ちとしてこういう人たちはこういう時間帯に使えるのかなみたいなものをどんどん出して、テストパターン的に進めていっても構わないんじゃないかと感じるんですよ。

というかそういうデータを積み上げないと、利用向上施設候補はこうだ、こうだなんて議論しても多分分からない話だろうから、次から次へやってみるのが一番だと思います。

そういう意味では、コンピューターのソフトウェアなんかだっけつって駄目なら作り直すみたいな形のがいっぱいあるので、工夫する取組というよりは、もうどんどんやられたほうがいいと思うんですよ。データを積み重ねないとこっちも、恐らくはどうして使われていないのかということも含めて、ではこうやるとすごく朝から晩まで、年寄りから子供までみんなが使ってくれる、万々歳だなんていうふうになるかならないかというのは見えないと思うんですよ。

データの見える化を目指すのであれば、ぜひともそういうことはこのタイムスパンで

行くと、一緒に動いているみたいに見えるんだけど、そうじゃなくてこっちはもうどんどん進めてやってみました、こうしたら失敗でした、やってみたらこれはうまくいきましたというのが、データとして委員会のほうに上がってくるような形を希望したいと思うんですけども。以上です。

【李会長】

ありがとうございます。

委員の皆さん、よろしいですか。

今委員の皆さんがすごく重要な話をしてくださったんですね。伊藤委員がおっしゃった話の中では、パブリックコメントの注意すべき部分、実態の話もあったんじゃないかなというふうに思うんですけど、大事なのは目指すところをどこに置くのかということなんです。いろんな細かい分析をして、機能向上、利用状況を高めるためのことを目指すんですけど、一番その前の段階で考えるところは、これをこういうふうにして、私たちが川崎市で施設の統廃合とか、あと機能向上をして最後に出るものはこういったものなんだということをまず描いて、それに合わせるような形でいろんな情報を活用するということがすごく重要なと思うんですね。

朴委員がおっしゃった話もそこにつながるんじゃないかと思うんですけど、目指すところは、これができたら市民に大歓迎されて、川崎市はこういう形で統廃合とかやっているんだなということをお支えしてもらえようもの、そうなるためには、川崎市公共施設再編は夢があるねということが言われるようなことを目指すということなんです。そうするためには、先ほどおっしゃった話の中で、朝から晩までいつもにぎやかで使われる施設、そういうこともすごくいいんですけど、そのような実現のためには、公務員の方々だけの運営は本当に難しいですね。民間の力を借りないと駄目なんです。

だから、一日中群がっている複合商業空間とか、その中に本屋さん、図書館、スポーツ関連のものとか、あとそこで買物もできたりとか、あと郵便局とかいろんなものがそこでできるから、そこを待合場所にしたりとか、あと家族全部が来て子供をどこかに預けて、お父さんお母さんは別のことをしたり、そういうことができるようなことをするためには、やっぱり官民連携と1日使うための利用時間のスパンをどうやって有効に配分すればたくさんの方が来て、一つだけの仕事を終えてすぐ戻るんじゃなくて、そこでいろんなことができるようになるのかということが、検討の内容に入らないといけないんじゃないかと思うんですね。

そうすることでパブリックコメントの中で、多分市民の方々がたくさん意見を出してくれると思うんですけど、それを全部100%反映することは、本当に伊藤委員の言うように難しいんですよ。だからそれを全部受け入れる形で、どこかの偏ったユーザー側だけのところになるかもしれない、そういうことだけには注意していただいたほうがいいんじゃないかなというふうに思いますので、よろしくお願ひします。

資料3の内容について、ほかの意見は大丈夫ですか。

それでは、本日子定していた議題及び報告は以上となりますが、全体を通して何か御意見などございますでしょうか。

【朴委員】

すみません、今の御意見の中であって、それからワークショップなんかでも上がってきた意見を聞いたときに思ったのは、この委員会は公共施設を考えるマネジメントの委員会なのでちょっと道がずれるのかなと思いますが、委員長がおっしゃったみたいに、公的な施設だけで取り組むことが難しいものもあると思います。それは運営もそうだし、それから施設そのものも、ハードウェア的な施設そのものもそうだと思います。

例えば本当に小さい子供たちの遊び場は、今は多分どこかのモールとかその中にある小さな遊び場で、私の勝手な理解で言えば、多分だけ一番使いやすいものだと思います。公共施設のところにお母さんがちっちゃい子供を連れてきて、何時間か遊ばせましようということをやっている親は少ない。むしろ買物の途中でどこかのモールで遊ばせていて、それから買物して帰るみたいなことが多いだろうと。

そういう施設とかそういうものを利用するとかを考えると、市とかあるいは国とかが考える公共の施設だけで市民の満足をまるっきり得られるかと言われれば、多分かなり難しいと思います。

ただこの委員会でそれを繰り返し込みながら何かを考えろと言ったら、とんでもないデータととんでもない考え方の方針が出てしまうので、そこまでは多分無理だとは思いますが、そういう下敷きがあるんだということもやっぱり少し理解をしながら、だからこういう施設が必要なんだという意見にまで持っていけたらとてもいいかなとは思っています。以上です。

【李会長】

ありがとうございます。

ほかに御意見はいかがでしょうか。大丈夫ですか。

今回、資料全体を見て、話を聞きながら考えたんですけど、具体的な検討段階に入ったときに、多世代間交流とか、利用ニーズを高めるためのいろんなことを検討しているんですけど、以前から私が申し上げていた青少年の利用を向上するための、まだ視点の段階ですから、具体的な話になっていないからどのような機能がそこに入るかはこれからになるかと思うんですけど、一番施設を使っていないのが中学・高校生だと思うんですね。この子供たちが何かやろうとしたときに公共施設に行こうとなるようにできれば、若い子供たちがそこに群がることは、全体の利用につながると思うんですね。ですので、ぜひ青少年の利用向上のための具体的な内容がモデル事業に入ることを望んでおります。よろしくお願いします。

それでは、これをもって本日の議題は終了となりますので、事務局に進行をお返ししたいと思います。よろしくお願いします。

【事務局】

長時間にわたりまして御審議いただき、ありがとうございました。

以上をもちまして、令和6年度第2回川崎市公共施設マネジメント推進委員会を終了いたします。

今回の第2回をもちまして、今年度の委員会は終了となります。また、各委員の任期におきましても2年間ということで、令和6年度の今回をもって一旦終了ということになります。各委員におかれましては、2年間にわたりまして、本市の資産マネジメントの推進に御尽力いただき、ありがとうございました。この場を借りて感謝申し上げたいと存じます。ありがとうございました。

来年度の委員会でございますが、令和7年度に策定いたします「(仮称)モデル4地域における資産保有の最適化に向けた取組方針」のを中心にご審議をお願いいただくことと、また、モデル4地域以外の地域もまだございますので、そちらの残りの地域についてこういった形で取組を進めていくかということ事務局のほうで考えながら、委員の皆様のご意見を賜りたいと存じますので、来年度もよろしくご意見をいただきます。

それでは、本日の委員会のほうは以上をもちまして終了となります。長時間にわたりましてありがとうございました。

— 了 —